動力伝達装置

点検項目	トランスミッション及びトランスファの油漏れ及び油量（1/2）
点検の目的	オイル漏れなどによりオイル量が減るとギヤの摩耗を早めたり、ベアリングの焼き付きが生じるため、これらを防止するために点検を行う。
備考	点検整備の項目と実施時期については下記サイトをご確認ください。 ＜トヨタ自動車 WEB サイト内　メンテンナンスノート＞

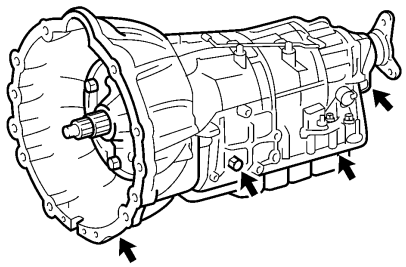
点検要領

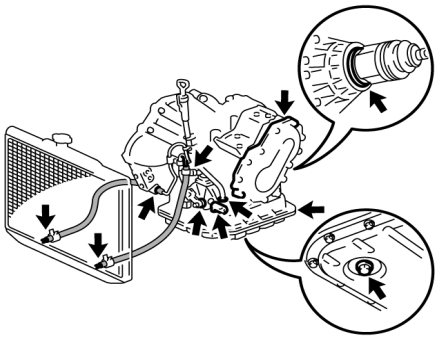
1. 油漏れ



トランスミッション及びトランスファ各部からオイル漏れがないかを点検する。

- 各ケースの接合面
- オイルパン
- 各シャフト、ケーブルの取出部
- オイルシール部
- ドレーンプラグ、フィラプラグ
- パイプ、ホースの接続部





＜判定のポイント＞

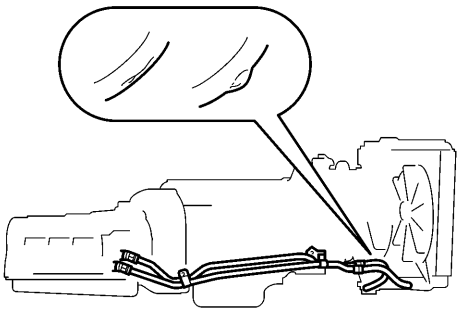
漏れのレベルと判定基準

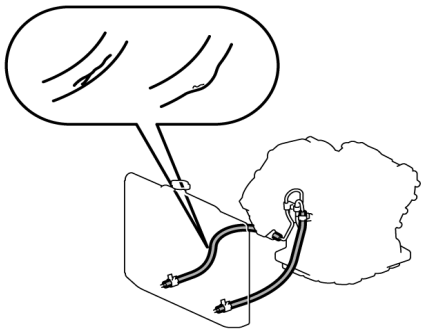
にじむ	たまる	滴下
○	×	×

2. ホースの損傷（A/T 車）



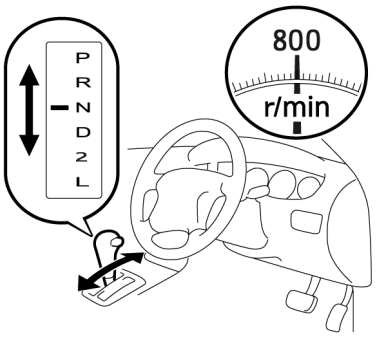
オイルクーラホースに亀裂やふくらみなどの損傷がないかを点検する。





3. 油量（A/T 車）

オイルレベルゲージなし：
漏れがなければ、点検不要

点検項目	トランスミッション及びトランスファの油漏れ及び油量（2/2）
点検要領	4. シフトポジションインジケータの作用（A/T 車）  アイドル回転状態で、チェンジレバーを各シフトポジションにしたとき、シフトポジションインジケータとの位置が合っているかを点検する。 

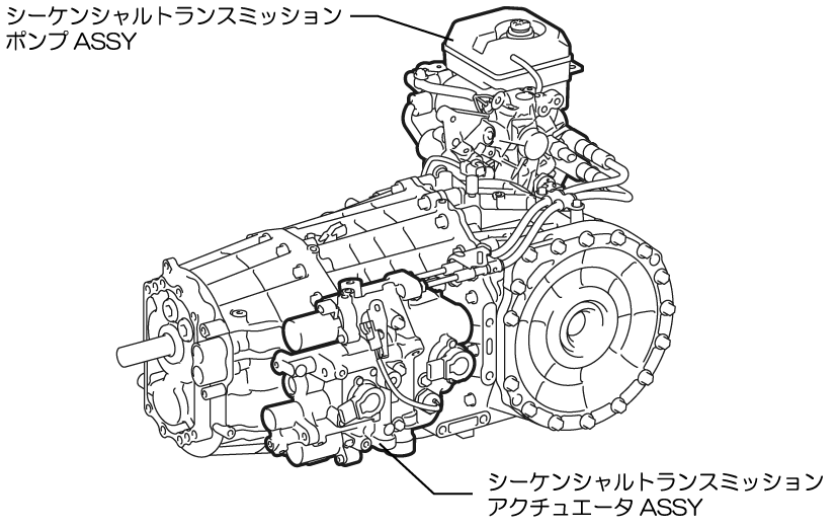
＜劣化のメカニズム＞

オイルシールは長期間の使用でシール性が落ち、オイル漏れを起こすことがある。

＜点検を怠ると＞

- オイル漏れはオイル量の不足につながり、油温の上昇や添加剤の絶対量の減少により、オイルの劣化を促進させる。
- A/T 車のフルード量の不足は、油圧発生不良による変速不良や走行不能、内部の湿式クラッチを損傷させる恐れがある。
- オイル量が多すぎる場合、油温の上昇やオイル漏れが発生する恐れがある。

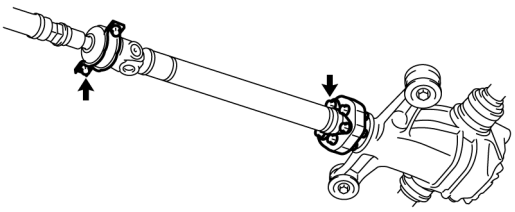
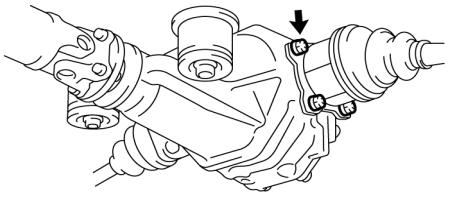
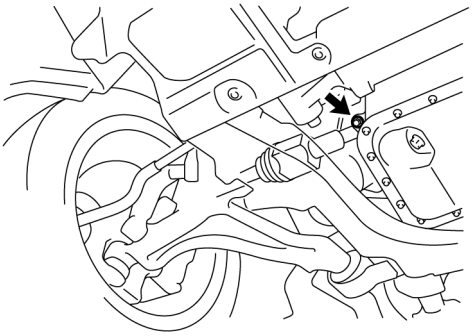
動力伝達装置

点検項目	シーケンシャルトランスミッションアクチュエータ、ポンプの油漏れ
点検の目的	
備考	点検整備の項目と実施時期については下記サイトをご確認ください。 ＜トヨタ自動車 WEB サイト内　メンテンナンスノート＞
点検要領	**1．液量** （1）シーケンシャルトランスミッションアクチュエータ及びシーケンシャルトランスミッションポンプからオイル漏れがないかを点検する。  **＜点検のポイント＞** ▶ 点検方法、基準の詳細は修理書を参照のこと。

＜劣化のメカニズム＞

＜点検を怠ると＞

動力伝達装置

点検項目	プロペラ・シャフト及びドライブ・シャフトの連結部の緩み
点検の目的	連結部の緩みは走行時の振動の原因となり、シャフトの脱落につながる恐れもあるため、これらを防止するために点検を行う。
備考	点検整備の項目と実施時期については下記サイトをご確認ください。 <トヨタ自動車 WEB サイト内　メンテンナンスノート>
点検要領	1. 緩み （1）プロペラシャフトのフランジヨークの締め付けナット及びセンタベアリングブラケットの取り付けボルトに、緩みがないかを点検する。  （2）ドライブシャフトの締め付けナット及びセンタベアリングブラケットの取り付けボルトに、緩みがないかを点検する。  

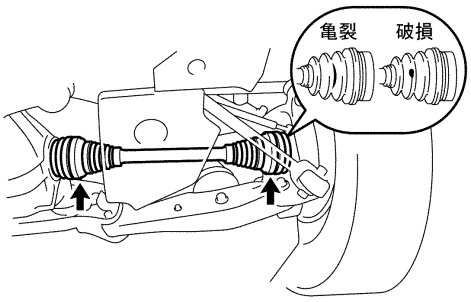
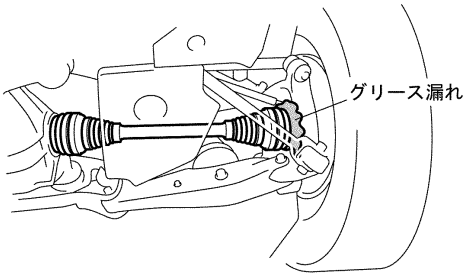
<劣化のメカニズム>

- 通常の使用では緩むことはないが、路面干渉や飛び石などで緩むことがある。

<点検を怠ると>

- 緩んだ状態のまま走行を続けると極端な場合、プロペラシャフト、ドライブシャフトが脱落し走行不能となる恐れがある。

動力伝達装置

点検項目	ドライブ・シャフトの自在継手部のダスト・ブーツの亀裂及び損傷
点検の目的	ダストブーツに損傷があると、泥、砂などが浸入してユニバーサルジョイントの故障の原因となるため、これを防止するために点検を行う。
備考	点検整備の項目と実施時期については下記サイトをご確認ください。 ＜トヨタ自動車 WEB サイト内　メンテンナンスノート＞
点検要領	**1. 亀裂及び損傷**  （1）ドライブシャフトのダストブーツに亀裂、破損がないかを点検する。また、ブーツクランプが正しく取り付けられているか、損傷がないかを点検する。  **＜点検のポイント＞** ▶ フロントドライブシャフトのホイール側のブーツは操舵により変化量が大きいため、亀裂があると進行しやすいので注意して点検する。 **＜判定のポイント＞** ▶ 亀裂がダストブーツの円周上に線状になったものは劣化がかなり進行しており、ブーツ切れの危険性があるため寿命と判断する。 ▶ ダストブーツに干渉や飛び石などで貫通している傷がある場合は、泥、砂などが浸入してジョイントを損傷させるので小さいものでも交換する。 **2. グリース漏れ**  （1）ドライブシャフトのダストブーツからグリース漏れがないかを点検する。 

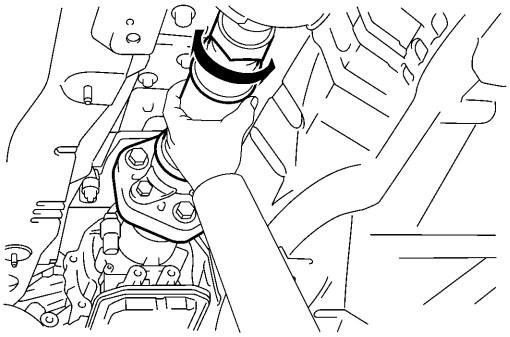
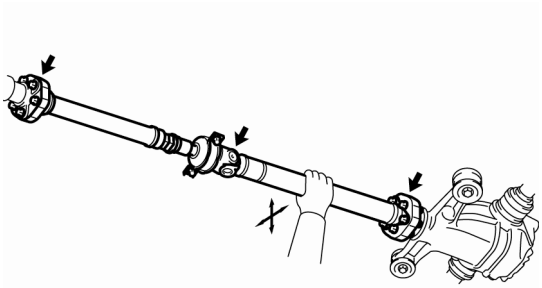
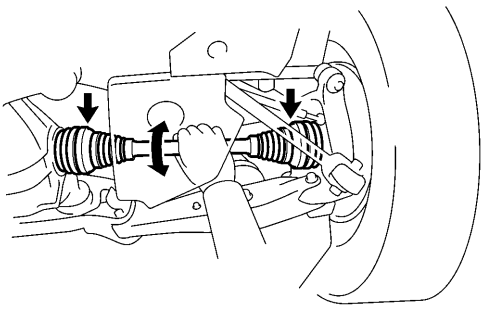
＜損傷のメカニズム＞

- ブーツは屈曲を繰り返し劣化していき、長期間の使用により亀裂が発生し細かい亀裂から徐々に進行して、最終的には破損することがある。
- 悪路走行による下廻り干渉や飛び石などでブーツが損傷することがある。

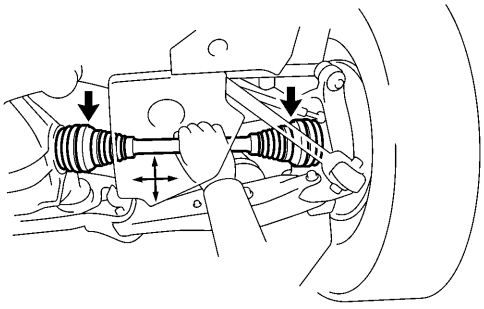
＜点検を怠ると＞

- ブーツに損傷があると泥、砂などが浸入してジョイントが損傷し異音などの故障につながる。さらに進行するとシャフトが破損し走行不能となる恐れがある。

動力伝達装置

点検項目	プロペラ・シャフト及びドライブ・シャフトの継手部のがた（1/2）
点検の目的	がたがあると走行時の異音などの原因となるため、これらを防止するために点検を行う。
備考	点検整備の項目と実施時期については下記サイトをご確認ください。 ＜トヨタ自動車 WEB サイト内　メンテンナンスノート＞
点検要領	1. がた  （1）プロペラシャフトを手で回転方向に動かし、スプラインに異常ながたがないかを点検する。  ＜判定のポイント＞ ▶ トランスミッション内部のがた（ギヤのバックラッシュなど）も出てくるので、間違えないように注意する。 （2）プロペラシャフトのジョイント部付近を手で上下左右方向に動かし、ユニバーサルジョイントにがたがないかを点検する。  （3）ドライブシャフトを手で回転方向に動かし、スプラインに異常ながたがないかを点検する。  ＜判定のポイント＞ ▶ トランスアクスルやデファレンシャル内部のがた（ギヤのバックラッシュなど）も出てくるので、間違えないように注意する。

点検項目	プロペラ・シャフト及びドライブ・シャフトの継手部のがた（2/2）
点検要領	（4）ドライブシャフトのジョイント部付近を手で上下左右方向に動かし、ユニバーサルジョイントにがたがないかを点検する。



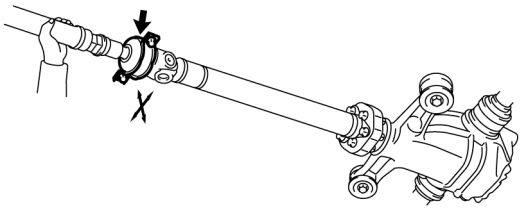
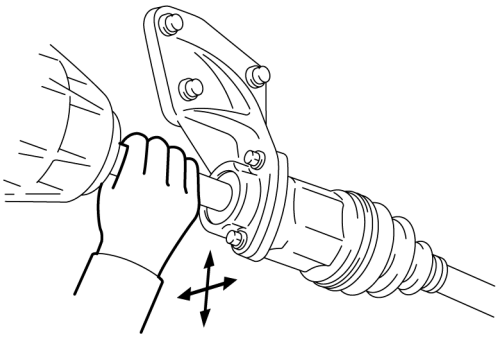
＜劣化のメカニズム＞

- 走行時の加速、減速の繰り返しによりスプライン部の円周方向に力が加わり、摩耗が生じるとがたが発生することがある。
- 摺動の繰り返しや異物混入によりジョイント部が摩耗し、がたが発生することがある。

＜点検を怠ると＞

- がたがあると走行時に振動や異音が発生する恐れがある。

動力伝達装置

点検項目	プロペラ・シャフト及びドライブ・シャフトのセンタ・ベアリングのがた
点検の目的	がたがあると走行時の異音などの原因となるため、これらを防止するために点検する。
備考	点検整備の項目と実施時期については下記サイトをご確認ください。 ＜トヨタ自動車 WEB サイト内　メンテンナンスノート＞
点検要領	1. がた  （1）プロペラシャフトのセンタベアリング付近を手で上下左右方向に動かし、センタベアリングにがたがないかを点検する。 ＜判定のポイント＞ ▶ センタベアリングはゴムブッシュを介して取り付けられているため、ゴムのたわみによる動きをがたと間違えないように注意する。  （2）ドライブシャフトのセンタベアリング付近を手で上下左右方向に動かし、センタベアリングにがたがないかを点検する。 

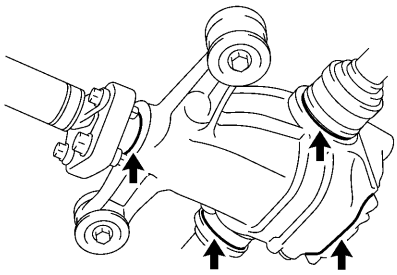
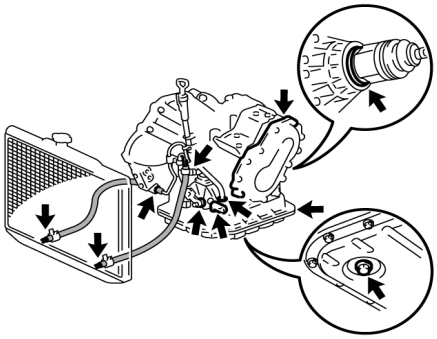
＜劣化のメカニズム＞

- 回転の繰り返しによりベアリングが摩耗しがたが発生することがある。
- センタベアリングはゴムブッシュなどの弾性体を介して車体に支持されており、経時変化によりゴムブッシュが劣化して、がたが発生することがある。

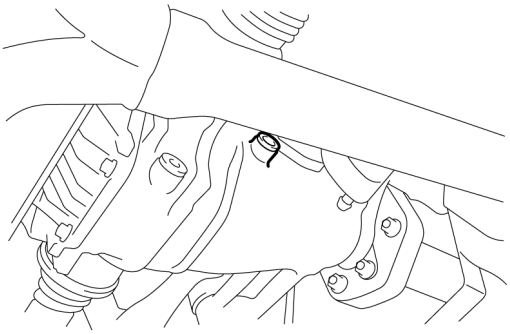
＜点検を怠ると＞

- がたがあると走行時に振動や異音が発生する。
- ゴムブッシュが劣化するとプロペラシャフトの振動を吸収しにくくなるため、ボデーに振動が伝わる恐れがある。

動力伝達装置

点検項目	デファレンシャルの油漏れ及び油量（1/2）
点検の目的	オイル漏れなどによりオイル量が減るとギヤの摩耗を早めたり、ベアリングの焼き付きが生じるため、これらを防止するために点検を行う。
備考	点検整備の項目と実施時期については下記サイトをご確認ください。 ＜トヨタ自動車 WEB サイト内　メンテンナンスノート＞
点検要領	**1. 油漏れ**  （1）デファレンシャル各部からオイル漏れがないかを点検する。 ・キャリヤの取付部　・ドレーンプラグ、フィラプラグ ・オイルシール部　・ケースの接合部   **＜点検のポイント＞** ▶ トランスアクスル車は、トランスミッションのオイル漏れ点検に含む。 ▶ E-four 採用タイプの HV 車は、リヤトラクションモーターの油漏れを点検する。 **＜判定のポイント＞** ▶ 漏れのレベルと判定基準 にじむ：○　たまる：×　滴下：×

動力伝達装置

点検項目	デファレンシャルの油漏れ及び油量（2/2）
点検要領	2. 油量  （1）デファレンシャルのフィラプラグを取りはずし、指などでオイル量が規定の範囲内にあるかを点検する。  ＜点検のポイント＞ ▶ 前回の点検からの整備歴がなく、オイル漏れがなければオイル量は正常（漏れがなければオイルが減ることはない）と判断し、この点検を省略してもよい。 ▶ トランスミッションとデファレンシャルのオイルが共用のものは、トランスミッションのオイル量点検に含む。 ▶ E-four 採用の HV 車は、リヤトラクションモーターのフィラプラグを取りはずし、指などでオイル量が規定の範囲内にあるかを点検する。

＜劣化のメカニズム＞

- デファレンシャルの入出力軸のシールはゴム製のオイルシールが使われており、長期間の使用による摩耗により締めしろが低下し、オイル漏れを起こすことがある。

＜点検を怠ると＞

- オイル量の減少は、油温の上昇や添加剤の絶対量の減少によりオイル劣化を促進させる。
- 旋回時や坂路発進など油面変化によって一時的に潤滑不良を起こし、ギヤやベアリングの損傷や異音の原因となり、最悪オイル切れにより焼き付きや破損、走行不能となる恐れがある。